

「会員短信 12」

「農と家事と俳句と」 鈴木和枝

私は、口語俳句、自由律俳句をつくっています。静岡県現代俳句協会や島田市の文化協会、主宰している会の編集などの仕事も担当しています。

滑稽俳句との出会いは、丁度十年前の静岡での国民文化祭です。八木健会長に講演を依頼したのですが、八木会長は「朝起きてから寝るまで俳句になります。全てを俳句化出来ますよ」とお話になりました。文化祭以来、滑稽俳句に親戚のような親しみを感じるようになりました。

私の一日は、午前は、朝の片付け、自己流のピアノ、田畑のあれこれです。午後からは二時間程休息をとり、用事はためておいて一気に走ります。夕食後、指定席に座って一日の色々を思い出しながら、俳句の時間となります。

これまでは、自分は若いと自信がありましたが、去年の秋、遂に足腰が言う事を聞かなくなり、杖のお世話にならざるを得なくなりました。私の代で止めるのは辛いけれども、米作りは止めようと心に決めました。

ここに置かせてください私の杖

この春離農うすうす気付いている地下足袋

ところが春になり、啓蟄の虫達と相談でもしたかの様に足腰がまたもぞもぞと少し動くようになってきました。半分だけ米を作ることにしました。米作りを通して俳句の材料を得たいという思いも原動力になっています。やはり、農と家事と俳句は私にとって切り離す事が出来ません。体と相談しながら、もう少し頑張ってみようと思います。